

令和7年度山形県献血推進協議会議事録

1 開催日時 令和8年2月6日（金） 15:00～16:30

2 開催場所 山形県赤十字血液センター2階会議室

3 出席者

(1) 委員

間中英夫、岡寄千賀子、後藤道子、菅原祥子、板垣有紀、奥山賢、京谷吉雄、高橋晃平、黒木友美、辻原吉子、宮地ひなた、加藤裕一、横山寿行、鈴木育子、玉虫秀明、熊谷弘美

以上16名

(欠席委員)

佐藤孝弘、阿部誠、木村和浩、本間優子、永岡幹子、五十嵐雪子、小笠原千聡、熊谷弘美

(敬称略)

(2) 事務局 山形県健康福祉部：森野医療統括監、本間薬務・感染症対策主幹 他
山形県赤十字血液センター：林所長、金光調整監 他

4 会議概要

(1) 開会 (15:00)

(2) あいさつ

(3) 協議

① 報告事項

ア 事務局（健康福祉企画課）

資料1に基づき報告

イ 事務局（山形県赤十字血液センター（以下「血液センター」））

資料2、3に基づき報告

<質問・意見等>

○加藤委員（山形県保健所長会）

資料1の3ページ目の年齢別献血者数の推移の内訳の中で新規献血者はどの程度いるか。50代が増えているが、リピーターなのか、新規者なのか教えてほしい。50代に限らず、データがあれば教えてほしい。

○事務局（血液センター）

調べ回答することとなった。

○奥山委員（日本赤十字社山形支部）

資料1の3ページに質問したい。

- ①令和5年度と令和6年度の10代の数値を比較するとわずかに増加している。取り組みや特別なこと等の要因があれば教えてほしい。
- ②20代が減少傾向となっている。コロナの時は横ばいだったが令和4～6年が減少傾向である。大学生の学生ボランティアに働きかけを行っているが20代が伸び悩んでいる要因が分かれば教えてほしい

○事務局（血液センター）

- ①令和5年度から令和6年度が増えた要因としては、高校献血の実施校数が増加したことが1つの要因と考えている。令和5年度は31校、令和6年度は、36校に協力いただいている。
また、高校献血の際は、県及び市町村と協力して事前に献血セミナーを行い、献血の理解を深めていただいて、献血に協力いただいている。
献血ルームでも高校生向けのキャンペーンや夏休みには中高生にボランティアとして活動してもらっている。高校 JRC のボランティアの関係で、献血ルームに私たちがどうすると来れるかというリーフレットを作成いただいている。センターでは、そのリーフレットを市内の高校に配布している。
- ②県外に進学・就職している者が多くなることが要因と考えている。

○辻原委員（ガールスカウト山形県連盟）

資料2の4ページの山形市立千歳小の生徒が施設見学している。これは、申込を行えば可能なのか。また、子供だけでなく町内会のような大人も施設見学は可能か。

○事務局（血液センター）

可能である。山形市教育委員会に説明させていただき、小中学校の学校教育として献血の啓発を行っている。
一般の町内会も見学いただいている。

○辻原委員（ガールスカウト山形県連盟）

山形市立千歳小の生徒が来た際の生徒の感想を教えてほしい。

○事務局（血液センター）

病院に届ける実物を見せながら説明した際、目を丸くしながら、赤い血液だと思っていたら、血液に黄色いものもある等、初めて血液をみた感想をいただいております、職員としてもインパクトを受けた。若い世代に献血のことを説明していきたい。

○菅原委員（山形県栄養士会）

献血に来た者のうち、何らかの原因でできなかった者の割合や原因のデータがあれば参考に教えてほしい。

○事務局（血液センター）

昨年度、何らかの原因でヘモグロビン値が低く献血をお願いできなかった者は、7.4%ほどいた。

その中には、若い方で朝ごはんを抜いていて、ヘモグロビン値が基準に満たない方がいた。そういう方には、朝食を抜かないことやごはんをバランスのよく食べるように職員又は市町村、検診医師が指導を行いながら、献血できる身体づくりの指導を行っている。

○熊谷委員（フリーライター）

①資料4の献血功労者表彰・感謝状受賞団体で山辺高校が受賞されており、どのような取り組みを行っているか教えてほしい。

②20代、30代の献血者を増加させるためには、企業の若い方に協力いただくことが1つだと思うため、うまくいっている企業のことをWEB等でPRすることが効果的と考えられる。

○事務局（健康福祉企画課）

①20年以上献血に積極的に協力したことにより、表彰を行っているため、継続して協力いただいたことにより表彰となっている。

②受賞した企業については、ホームページ等でPRしていきたい。

○熊谷委員（フリーライター）

先生や団体等のキーマンがいると思うので、その方にインタビューすることもよいPRになると思う。

② 諮問事項

令和8年度山形県献血推進計画（案）について

事務局（健康福祉企画課）

「令和8年度山形県献血推進計画（案）」に基づき説明

審議の結果、原案のとおり承認された。

<質問・意見等>

○後藤委員（山形県看護協会）

リーフレットに記載の「65歳から69歳までの方は、60歳から64歳までに献血の経験のある方に限られます。」は60歳までに過去に献血経験があってもできないという解釈でよいか。理由が分かれば教えてほしい。

○事務局（血液センター）

厚生労働省の基準で示されているため、この基準に従い献血を行うこととなる。

① その他

○宮地委員（山形県学生献血推進協議会）

若者や献血者数を増やすための考えを発表させてもらいたい。

若者の間で好きなアーティストやインフルエンサーを推していくことが流行となっているので、献血バスが行くところのイベントや学祭にインフルエンサーや YouTuber 等の有名人を呼んで献血の告知や献血をすることで会えるようにすることで若者の献血者を増やすことが必要だと思った。モンテディオ山形も人気なので、献血をすると試合でいい席で観戦できる仕組みがあるとよいと思う。

n i c o こえさんのようにレモネード×あじまんのように、赤十字とどこかのお店とコラボすることで献血者増加に繋がると思う。

コストパフォーマンスやタイムパフォーマンスを重視する若者の傾向に着目して、献血をしている間、テレビだけでなく動画配信サービスを見れるようにすることで若者の献血行きたいという気持ちを促せると思う。

献血に行くうえで、命を救いたいという気持ちで献血に行ってもらうことが一番理想だが、若者の献血者数を増やすためには献血に行きたいことを検討することも必要と考える。

○議長

貴重な意見ありがとうございました。日赤のほうで検討いただきたいと思います。

(4) 閉会 (16:30)